

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

60

皆さんは何回、尾瀬に行かれただろうか。私はこれまで2回行ったことがあったが、6月に3回目の尾瀬を経験させてもらった。そして、念願の山小屋に泊まらせてもらった。

翌日は午前7時出発予定となっていたが、せっかく山小屋に泊まっているので、同行した皆さんに「日の出に散策に出発しましょう」と提案。皆さんも「良いですね」と同意。

夜は結構激しい雨が降っていたのだが、不思議なことに出発の30分前には雨がやんだ。本当にラッキー。その後、約6時間半、尾瀬ヶ原を散策した。

尾瀬の散策

その途中、1時間ほど雨に降られたが、それ以外は大丈夫で、雨の後には虹が出てきた。6月下旬には珍しいミズバショウも咲いて

自然保護の意義実感

尾瀬にはもともとダムを建設する計画があったが、かの有名な「夏の思い出」がラジオで放送されたこともあり、観光客が激増した。環境への影響が大きくなったことから、保存活動、湿原回復活動が拡大。1972年には「こみ持ち帰り運動」が始まり、こみ箱が完

尾瀬にはもともとダムを建設する計画があったが、かの有名な「夏の思い出」がラジオで放送されたこともあり、観光客が激増した。環境への影響が大きくなったことから、保存活動、湿原回復活動が拡大。1972年には「こみ持ち帰り運動」が始まり、こみ箱が完

全に撤去されたらしい。今や、山や川や海などの自然に行った時には、こみは持ち帰るといふのは、尾瀬に限らず、全く当たり前になっているが、こみ持ち

帰り運動を開始した時には、そうでなかったのだから。この運動は、まさしく自然散策における「パラタイムシフト」その時代において当然のこととして考えられていた認識が劇的に変化する「こと」だったのである。そうなのだから、私に全

間に、徐々にでも確実に季節は回っていたのだ。最近、尾瀬

ていた。今年は降雪量が多かったので開花期が後ずれしたほか、シカに食べられるのを防げたらしい。これまたラッキー。

今回はガイドの方に、尾瀬の歴史、できたプロセス、地形、地名の由来、花々や動物などを、本当に詳しくご説明していただいた。その中でも尾瀬に関する歴史が興味深かった。

全に撤去されたらしい。今や、山や川や海などの自然に行った時には、こみは持ち帰るといふのは、尾瀬に限らず、全く当たり前になっているが、こみ持ち

たが、その限界やダメなところ、こうした経験で、自然の素晴らしさと自然保護の大切さを実感させていただいた。今度は、どの季節の尾瀬を見に行こうかなあ。



岡山和裕（おかやま・かずひろ） 1969年7月生まれ。兵庫県出身。東京大学法学部卒。92年日本銀行に入り、業務局統括課長、決済機構局業務継続企画課長、情報サービス局総務課長などを経て、2018年4月から現職。